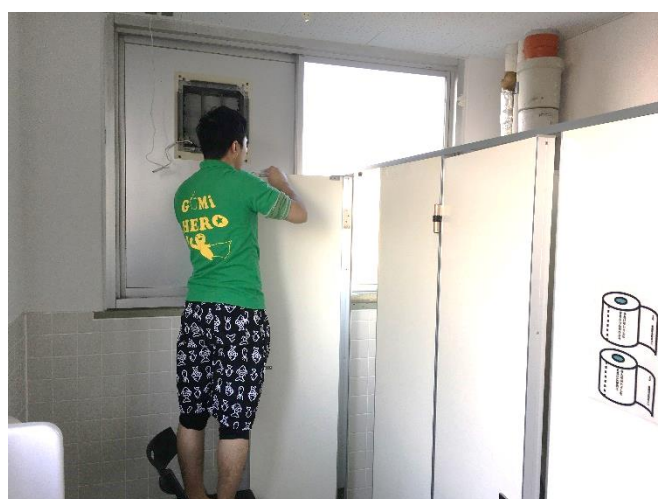


## 第20回京都山城便教会

令和元年 11 月 24 日（日）

第 20 回京都山城便教会は、向日市立勝山中学校で実施しました。参加者は 15 人。いつもは教員がほとんどですが、今回は勝山中学校出身の大学生や社会人の皆さんも多く参加していただき、いつもとは少し違ったメンバー構成で行いました。卒業生の皆さんは、教室を懐かしみ、久しぶりに会う友達や先生方との会話を楽しんでおられました。一方で、トイレ掃除はほとんどが初めての方。実際に会が始まると、「いったい何が起ころのだろう」とドキドキとワクワクが入り混じっている感じがありました。そのため、おおまかな流れの説明だけをさせていただき、すぐに掃除に入りました。先入観がない方が、きっと感性に触れられるはず。そう思ってスタートをしました。

最初は、蛍光灯や換気扇、床掃除ですので、精力的に動いておられました。いざ便器の前に立ち、尿こしの奥から醸し出される尿石の塊と臭いにざわつく場面も。ただ一度覚悟を決めて手を突っ込むと、またトイレ磨きに精が出る。そこから、また夢中でトイレを磨かれていました。



今回は、全体での説明をできるだけ少なくしました。そうすると、どうなるか。皆さん、色々と考えて行動されるのです。これはどうしたらもっときれいになるか、次にできることは何だろうか。そして分からなければ「できることはありますか」と質問。主体的に活動していただいているからこそ、すべてに良い流れが生まれてきました。子ども達の活動もこうなればいいのだろうなと思いつつ、トイレ掃除を終えました。

## <トイレはピカピカに仕上がりました！>



最初はかなり汚れていた便器もピカピカに。便器の持つ白い輝きが戻ってきました。トイレを磨くと空気が変わるのが本当に不思議です。

### 参加者の感想

- ・トイレ掃除をしたのは中学校以来。今、仕事をしているが、こういう機会がないとやらないようになっているが、久しぶりにやって、清々しい気持ちであった。会社の人以外とこのような形で交流するのも大切だと感じた。
- ・トイレを見たときに、水あかがまだらになっていたが、それは今の自分を表しているように感じた。それをていねいに磨くことで、自分の心も磨かれていっているような感じがした。
- ・最初、トイレに素手で触るときは、たじろいだ。けれども一度触ってみると、もうどうでもよくて、段々とトイレを磨くのに必死になっている自分がいた。そして、磨き続けるとどんどん便器もきれいになっていって、愛着が湧いてきた。
- ・掃除の考え方と教育の考え方が一緒に驚きがあった。最初はやわらかいものから使い、徐々に固いものに変えていくことも、子どもへの指導も同じだと知り、掃除の奥深さを感じた。
- ・スポンジ→ナイロンたわし→サンドメッシュと3段階あることで、自分の心にも余裕があった。これで取れなくても次があるという気持ちになった。仕事でも、3歩先を見通し、余裕を持って取り組むことの大切さに気づいた。
- ・時間に余裕があるから掃除をするのではなく、いくら忙しくても掃除をすることで余裕が生まれるのではないかと思った。
- ・卒業生と一緒にこうやって掃除ができることがすごく嬉しいし、自分が色々な方から教わってきたことを次につなげる「恩送り」をこれからもしていこうと思う。また当時教頭で、今は校長となられた先生に感謝の気持ちをきちんと伝えたいと思って参加した。
- ・教育の中で、「考える」ということがすごく大事だと思って教育に取り組んでいる。トイレ掃除をしながら、自分と対話をし、考えることで、大切なことに気付かされる。



今回は2020年2月24日に、同じく勝山中学校で実施することになりました。何度もお世話になっている勝山中学校。その校長先生も今年度で定年退職されます。今までお世話になった御礼もこめて実施したいと思います。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

(小笹大道)